

長は巻頭で「皆い描く夢や希望で学んだこと。地域、世界を立つ人が多く出まらう」によう期待する」

の作文には将来もに、現実を踏出、釜石の未来へふされた。「震災ちゃん」の妹と目で苦しんだ。津で道路が通れは数日後、ひと入院した。だか中妻方面とを道路がほしい」思いついた。

### 想

母さんになつてもを海岸で泳。魚、海そうが入事です」と海を守るよう願うも。災害に強い、復興へ向け、さは思いやりつった作文も

## ビジネス展開のヒントつかむ 女性の創造塾 環境ウイメンが助言

女性のための環境ビジネス創造塾in釜石は16日、釜石市大町の釜石ベイシティホテルで開かれた。環境省の開催地募集に市が応募して実現したもので、さまざまな分野で活動する釜石・大槌地区の女性16人が参加。講師として「環境」ビジネスウイメン」5人の派遣を受け、新たなビジネス展開のヒントを学んだ。



自身が取り組む活動などを説明しながら自己紹介する参加者

04年に環境大臣の諮問機関として活動を開始。一般社団法人となった現在は、総勢43人がメンバーに名を連ね、環境ビジネスや女性の起業に関する課題解決に向けた活動を続けている。講師の5人は、環境関連事業を行う会社やNPOの代表などで、それぞれの仕事内容を紹介した。

校エゴ改修について、ビジネスエージェンシーの鈴木敦子社長は、記念樹植樹による森林再生プロジェクトで交流人口増など地域活性化につなげている事例を示した。Value Frontierの梅原由美子取締役は、農村地域のバイオマスエネルギー事業化への取り組み、アジアの熱帯林再生で現地住民の生活が潤う仕組みについて、サステナブルコミュニティ・プロデューサーの

大和田順子さんは、東日本大震災の被災地で地元女性と一緒に進める復興プロジェクトについて、NPO法人WE21ジャパンの郡司真弓前理事長は、56店舗を展開するリサイクルショップの運営方法を紹介した。

参加者が行う活動や仕事の情報交換の時間もあり、抱える問題点や復興まちづくりへの思いを語り合った。

## 「もりのおくりもの」 春日井市から環境絵本



春日井市から釜石市の幼児に贈られた環境絵本「もりのおくりもの」

愛知県春日井市からこのほど、釜石市の幼児へ環境絵本「もりのおくりもの」50部が届けられた。被災地の子どもに「森や自然を一層愛そう」と願うメッセージが添えられている。絵本には、幼稚園行事で親子が森の学習と遊びを楽しむ様子が描かれた。春日井市は、絵本を贈ったのは春日井市の学校法人神戸幼稚園長で愛知県議の神戸洋美さん。神戸さんは

## 小川町で防災訓練 消火、救命、情報伝達

釜石市の小川町内会（佐藤俊夫会長、660世帯）の防災訓練は16日、小川集会所などで行われた。住民ら60人が参加し、消火、救命法、情報伝達、非常炊き出しなどに取り組んだ。



例年より多くの住民が参加した小川町内会の防災訓練

消防署員の指導で、消火器での初期消火、心肺蘇生法、AED（自動体外式除細動器）の使用と119番通報訓練を体験した。

防災行政無線のメッセージ化に伴い、地域の自主防災組織や消防団が音声発生装置で直接放送できるようにしたことを受け、新たな情報伝達訓練も実施。集会所と市働く婦人の家の間にある音声発生装置を用いて、「こちらは小川町内会自主防災部です」と訓練放送を試験した。

## 水難救助指導



泳ぎながらマネキンを運ぶ技術を学ぶ参加者

で、拓殖大に入つてSの選手になりた」と目標を掲げた。昨年10月からLで始めた双葉小5年の金崎珠深（しゅみ）（11）は盛岡LSCに属。夏の全国ジュニア出場を目指し、厳格なトレーニングを重ねる。「練習はきつかった。大学生と一緒に楽しかった。将来は、海で人命救助のボランティア（volunteer）

復興釜石新聞第179号  
平成25年3月23日（土）

## 再会果たしに釜石へ

出陣した。インターハイに出た学校とは知らず、レベルの高さに驚いたか